

第二回 適性検査型入試 検査Ⅰ 解答・解説

〔問一〕

周囲の人々とは別の視点から見ることで、視野が広がり歯が立たない問いも違う見え方ができるようになる。

(四十九字)

解説

傍線部ア「問題となっていて、傍線部直前の因果関係を示す「その結果」に着目し、その前の文章「いまだその答えはまだ出ていない。それでも大昔からその問題に食らいついて問い続けてきた。」を解答の根拠とします。同じ内容の文章が文章1、三段落六行目「答えがすぐに出ない。あるいは答えが複数ありうる、いや答えがあるかどうかよく分からない」を軸に、その対処方法である「そんなときにたいせつなことは、わからないけれどこれは大事ということを掴むこと、そのわからないものにわからないままに正確に対処できるということ、いいかえると、性急に答えを出そうとするのではなくて、答えがまだ出ていないという無呼吸の状態にできるだけ長く持ち堪えられるような知的耐性を身につけることだ」の

解答のポイント

- ① 「みんなが一方からしか考えられなくなっているときに、別の方向から見るのがたいせつ」(説明)
- ② 「視野が広がる」(効果)
- ③ 「歯が立たないと思った問いも少し違う見え方になる」(効果)

〔問二〕

急いで答えを出さず、わからないけれど大事ということを掴み、わからないものに対して正確に対処すること

が必要

(四十九字)

解説

傍線部イの理由を問われているので、傍線部直前の因果関係を示す「その結果」に着目し、その前の文章「いまだその答えはまだ出ていない。それでも大昔からその問題に食らいついて問い続けてきた。」を解答の根拠とします。同じ内容の文章が文章1、三段落六行目「答えがすぐに出ない。あるいは答えが複数ありうる、いや答えがあるかどうかよく分からない」を軸に、その対処方法である「そんなときにたいせつなことは、わからないけれどこれは大事ということを掴むこと、そのわからないものにわからないままに正確に対処できるということ、いいかえると、性急に答えを出そうとするのではなくて、答えがまだ出ていないという無呼吸の状態にできるだけ長く持ち堪えられるような知的耐性を身につけることだ」の

部分をまとめます。

解答のポイント

- ① 「わからないけれどこれは大事ということを押むこと」
- ② 「わからないままに正確に対処できるということ」
- ③ 「性急に答えを出そうとしない」「答えがまだ出ていないという無呼吸の状態にできるだけ長く堪えられるような知的耐性を身につけること」

〔問三〕

友達の発言の中で「休憩しながらゆっくり考えること」と「テストや学校の勉強のよう」の二点が筆者の主張と論点がずれていると思います。

一つ目に、筆者はわからない問題に対して答えを急がずにじっと考え続けることが大切と主張しているものであり、休憩をはさむことやゆっくり考えることが大切だと述べているわけではありません。二つ目に友達はテストや学校の勉強と述べていますが、前提として問いの種類が筆者の主張における問いとは異なっています。筆者は、答えがすぐに出ない、複数ある、答え自体がそもそもあるかどうか分からない問いに対しての対処を述べているのであり、テストや学校の問いのように答えが明確にある問いに対するものではありません。

花子さんが問いに突き当たったときに意識すると考えられることの一つ目は、一つの考え方に固執せず、視点を変えて問題を問い直すこと、二つ目は、答えの出ない問いに対して、答えを急がず何度も問い直しながらも考え続けることだと思っています。(四百四十七字)